

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

サッカー場整備による交流促進のまちづくり

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道河東郡音更町

3 地域再生計画の区域

北海道河東郡音更町の全域

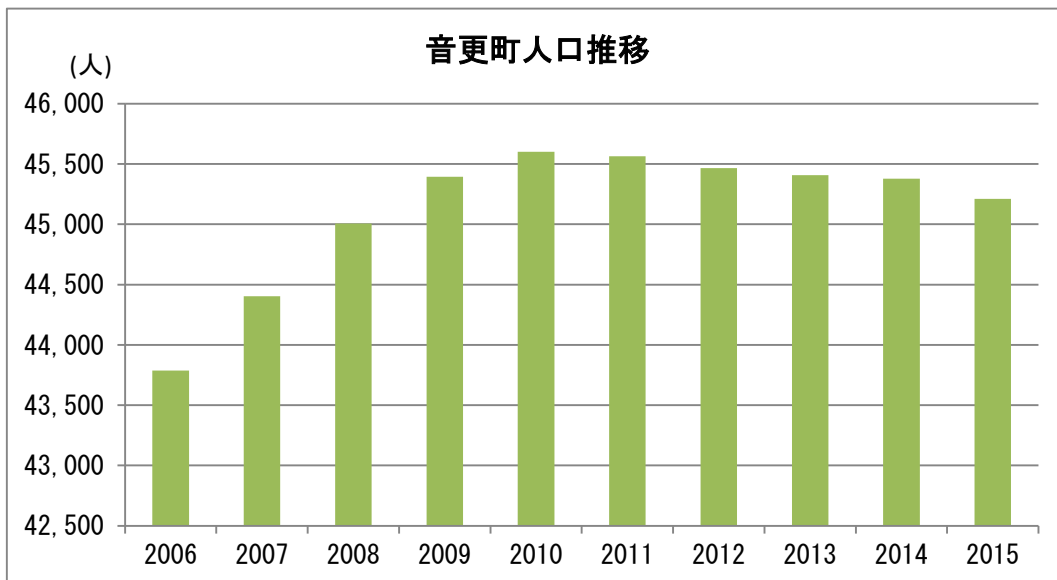
4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

本町のサッカー競技人口は581人であるが、地元北海道のプロサッカーチームであるコンサドーレ札幌の活躍や、海外リーグでも活躍した元日本代表の人気選手がコンサドーレ札幌に加入したこと等が影響して、サッカー少年団の加入者が過去3年間で30%伸張しており、町内サッカー人口が急増している。また、2017年シーズンからは、コンサドーレ札幌が日本のトップリーグであるJ1に昇格し、さらなるサッカー人気の高まりやサッカー人口の増加が予想される。

一方で、本町の国勢調査による人口は、1960年代後半からの高度経済成長期以降、帯広市に隣接する恵まれた立地条件を背景とする住宅開発の進展とともに増加を続け、この50年間でおおむね2万人増加したが、日本の人口が減少に転じる中で、本町の住民基本台帳の人口推移においても、2010年12月の45,707人をピークに減少傾向にある。

また、国立社会保障・人口問題研究所が公表している本町の人口推計から、今後も、人口減少が続くと予想される。



注) 住民基本台帳法の一部改正があり、2012年度以降は外国人を含む。 資料：住民基本台帳（年度末時点）

4-2 地域の課題

人口減少は、経済活動の縮小につながり、地域経済に影響を与えることから、今後も続く人口減少を補うために、交流人口を拡大させることにより、域内経済の循環を高め、地域経済を活性化する必要がある。

本町は、北海道遺産に指定されているモール温泉が湧き出る十勝川温泉を有し、観光ホテルやビジネスホテル等の宿泊施設が充実しているものの、更なる地域経済の活性化のために、より多くの人々が音更町を訪れるきっかけを作ることが本町の1つ目の課題である。

また、本町でサッカーの人気の高まりを見せている中、町内には公式規格のサッカー場がないため、一定規模の大会を開催することができず、河川敷にある2つのサッカー場は、豪雨による河川の氾濫により使用不可となることが多いため、関係者や競技団体のみならず、サッカー専用競技場の整備が広く望まれている。サッカーの練習や試合を行う場の確保が2つ目の課題である。

4-3 目標

本町の2つの課題を解決するために、各種サッカー大会が開催できる公式規格のサッカー場を整備し、練習や試合を行う場を確保するとともに、大会の誘致やイベントを開催することで、町外からの訪問者や宿泊客を増加させて、交流人口を拡大し、地域経済の活性化を図ることを目標とする。

【数値目標】

事業	サッカー場整備による交流促進のまちづくり		年 月
K P I	サッカー場利用者数（人）	宿泊の増加数（泊）	
申請時	0	0	29年1月
初年度	0	0	30年3月
2年目	33,000	4,000	31年3月
3年目	33,000	4,000	32年3月

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3)

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：サッカー場整備事業

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本町の人口は、2010年12月をピークに減少傾向にあり、この傾向は今後も続くと予想される。そこで、人口減少を補うために、全国大会や全道大会が開催できる規模のサッカー場を整備し、様々な地域の人々が利用することで、交流人口を拡大し、域内経済の循環を高め、地域経済を活性化することを目的とする。

(内容)

日本サッカー協会の公式規格に当てはまるサッカー場を整備する。また、支援措置によらない独自の取組みとして、サッカー場の利用者を増やし、交流人口を拡大する目的で、全国大会または全道大会の誘致や道内のプロサッカーチームと連携したイベントを開催する。

(サッカー場概要)

面数 2面（人工芝）

コートサイズ 105m×68m（公式規格）

客スペース	4,228 m ² (天然芝)	
駐車場	普通車用駐	151 台
	身障者用駐	3 台
	大型バス用	4 台

→各年度の事業内容

初年度) サッカー場建設工事・竣工

※ 2年度以降の事業については、支援措置によらない独自の取組みとして事業を実施する。事業内容については、5-3-2に記載。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

全国から合宿や大会誘致を展開することにより、各種経済効果や交流の拡大をはじめ、十勝の安全・安心な食や、自然豊かな住みやすい環境などをPRすることで、将来的な移住につながるものであり、総合戦略の基本目標にある移住、定住の促進、交流の拡大や、KPIの宿泊数の増加に寄与する。また、総合戦略の基本目標として、年間観光入込客数(現状 1,402,500 人→H31 1,461,000 人)、社会増(転入超過)の人数(現状 42 人→H31 200 人)を定めており、本プロジェクトは、この目標の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

事業	サッカー場整備による交流促進 のまちづくり	年 月
KPI	サッカー場利用者数(人)	
申請時	0	29年1月
初年度	0	30年3月
2年目	33,000	31年3月
3年目	33,000	32年3月

(6) 事業費 (単位: 千円)

サッカー場整備事業	年度	H29
	事業費計	535,266
区分	工事請負費	527,780
	備品購入費	7,486

(7) 申請時点での寄附の見込み(単位:千円)

年度	H29
法人名	製造業
見込み額(千円)	200

(8) 事業の評価方法(PDCAサイクル)

(評価の手法)

事業のKPIについて実績値を公表する。また、本町の総合計画推進委員会(商工会、観光協会、農協、帯広大谷短期大学、帯広信用金庫、地区連合会、社会福祉協議会、十勝毎日新聞社及び公募による町民)及び町議会により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

毎年度11月に外部有識者(総合計画推進委員)、12月に町議会による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに音更町ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間

平成29年4月～平成30年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 全国大会、全道大会等の誘致

事業概要: 町外からの利用者が見込まれる次の大会等を誘致することによって、町外から訪れる人や町内に宿泊する人を増やし、交流人口を拡大し地域経済を活性化させる。

ア 十勝での利用

スプリングサッカーフェスティバルU-15

北部中体連夏季大会
十勝地区チャレンジリーグU-14大会
北部中体連秋季大会
十勝地区カブスリーグU-15大会
全十勝中体連春季・夏季・秋季大会
小・中・高・大学生または社会人クラブ練習試合
小・中・高・大学生または社会人クラブ練習利用

イ 広域的な利用

全日本クラブユース選手権 (U-15)
北海道自治体サッカー選手権大会
道東ブロックカブスリーグU-15大会
全国高等学校サッカー選手権大会北海道大会
北海道カブスリーグ2部大会
北海道ブロックカブスリーグ決勝大会
北海道地区カブスリーグ決勝大会
JFAプレミアカップ北海道大会
その他町外からの合宿など

実施主体：音更町教育委員会

事業期間：平成30年度～平成31年度

(2) イベントの開催

事業実施：サッカーイベントの開催

町民等がサッカーに接する機会を作るために、プロサッカーチームと連携したサッカー教室を開催する。

実施主体：音更町教育委員会

事業期間：平成30年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIについて実績値を公表する。また、本町の総合計画推進委員会（商工会、観光協会、農協、帯広大谷短期大学、帯広信用金

庫、地区連合会、社会福祉協議会、十勝毎日新聞社及び公募による町民) 及び町議会により、事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度11月に外部有識者(総合計画推進委員)、12月に町議会による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに音更町ホームページ及び広報紙により公表する。